

2014 年 6 月 吉日

軽井沢ニューアートミュージアム開館 3 周年記念

ジャン＝ミシェル オトニエル 「愛の遺伝子展 “DNA of Love”」

ジャン＝ミシェル オトニエルは、フランス中東部に位置するサンテティエンヌ出身の現代アーティストです。1993 年以降、ムラーノガラスを使った立体作品を中心に制作をはじめ、今日においてはガラスはオトニエルのトレードマークの一つとなっています。

2011 年にポンピドゥーセンター（フランス・パリ）で開催された回顧展「My Way」では、3 ヶ月の会期中 20 万人の来館者数を記録しました。その後、ソウル、東京、マカオ、ニューヨークへと巡回し、世界的な注目を集めました。また、2014 年の秋には、ヴェルサイユ宮殿の噴水庭園「水の劇場」の改築に伴い、立体作品 *美しい舞踏* が永久展示されることが決定しています。

2014 年は、日仏文化交流 90 周年の記念すべき年です。ヴェルサイユ宮殿での展示と同時期に、軽井沢ニューアートミュージアムでは、ムラーノガラスをつかった最新作を屋内に 5 点、屋外に 1 点、ドローイング作品 15 点を展示いたします。

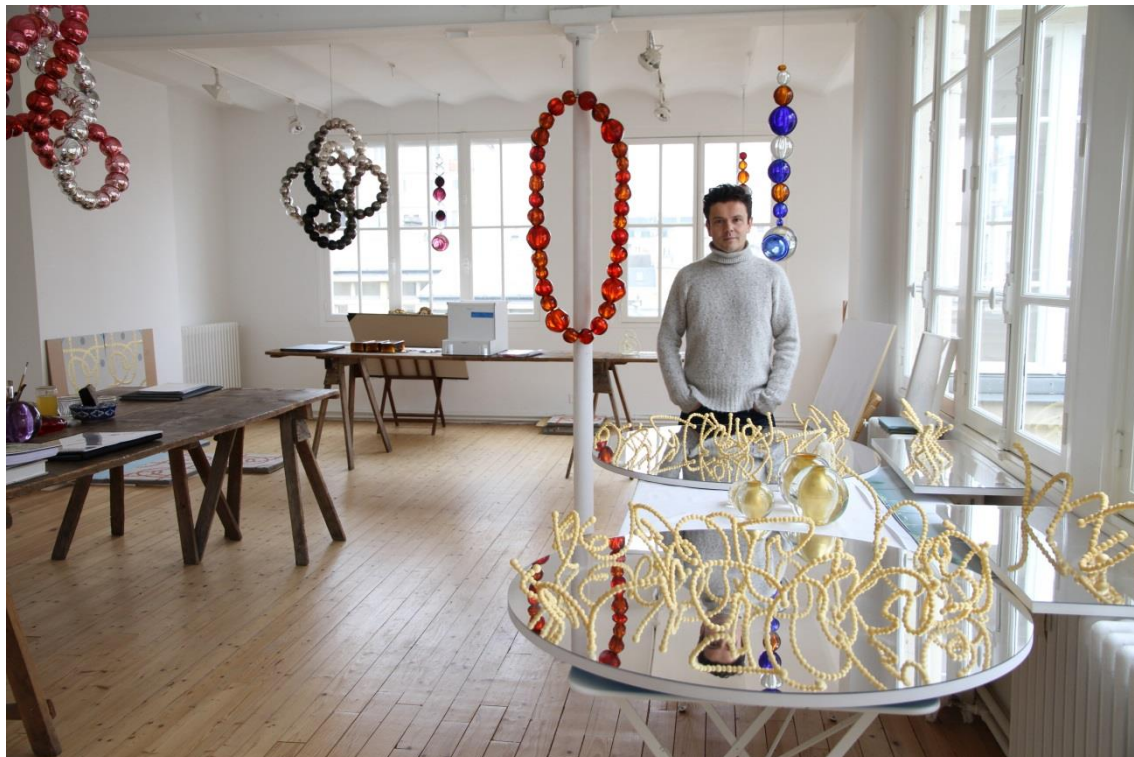
オトニエルは、歴史的な場所や庭園など、作品を展示する場所や空間にもこだわりをもつことで知られています。光を通す彼のガラスの作品は、光の中に展示されることにより、環境や空間と調和し、詩的な魅力がより一層豊かなものへと変わります。

軽井沢の自然の中に展示することにより、軽井沢という土地の魅力とともに、繊細でダイナミックな作品を体感してもらうことが本展覧会の特徴の一つです。当館の野外スペースに常設展示する *こころの門* と、美術館 1 階フリースペースに展示する *Collier autoporté bleu dégradé miroir*（青いグラデーションのあるネックレス〔鏡張り〕）は、多くの人にアートと触れる機会を提供し、これからの軽井沢における芸術文化振興のシンボルとなることを期待します。

kaNAM
KARUIZAWA
NEW ART MUSEUM

作家紹介

◇ジャン＝ミシェル オトニエル / Jean-Michel Othoniel [1964-]



Jean-Michel Othoniel in his studio in Paris, 2014. Photo: Othoniel Studio

フランスを代表する現代彫刻家、ジャン＝ミシェル オトニエルは硫黄や蜜蝋、鉛といった流動性のある素材を利用し、物質の「変形」という一貫したテーマを持ち表現活動を行ってきました。

1993年より、オトニエルが主に用いている素材はヴェネツィアの伝統品、ムラーノガラスです。ガラスという素材の持つ自由な形状変化や、幅広い発色性に可能性を見出し、ガラスによる作品作りはオトニエルのトレードマークの一つとなりました。

球体状に加工したガラスを数珠状につなぎ合わせ、巨大なハート型やネックレス型、シャンデリアなどのオブジェを制作しています。これらの作品では、ガラス玉ひとつひとつの大きさや配色に異なった表現がなされ、また作品全体にひねりやうねりが加えられています。さらに、展示空間との組み合わせも考慮された作品制作であるため、作品を含めた空間全体に調和がもたらされています。

作家略歴

- 1964 年 フランスのサンテティエンヌに生まれる。
- 1970 年 ロベール・モリスの展覧会でアートの衝撃を受ける。
- 1988 年 エコール・デ・ボザール(パリ・セルジー)を卒業。
- 1992 年 ドクメンタ I X (ドイツ・カッセル) に硫黄と蠟蜜でできた彫刻を出品する。
- 1993 年 素材の変形、変化、昇華などをテーマにガラスを用いた作品制作を始める。
- 1996 年 ヴィラ・メディシスの奨学生としてローマに滞在。
- 2000 年 パリの地下鉄開通 100 周年記念で、メトロ入口のデザインを手がける。ガラスとアルミニウムでできた冠状のインスタレーション *Le Kiosque des Noctambules* (夢遊病者のキオスク) を設置。
- 2003 年 カルティエ現代美術財団「Crystal Palace」展で初の個展。
- 2004 年 シャトレー劇場(パリ)にてピエール・ロチの幼少時代を演出した《小劇場ロバの皮》の舞台美術を手がける。
- 2005 年 「対位モチーフ」展にて、ルーヴル美術館内メソポタミア文明の展示室のために特別に制作した巨大なガラス玉の彫刻 *Rivière Blanche* (白い川) を展示。
アートバーゼル(スイス)において、マイアミの浜辺で打ち捨てられていたキューバ亡命者の船を利用し、政治的意味合いの強い作品 *Le Bateau de larmes* (涙の船) を制作、展示。
- 2006 年 青いガラス玉の巨大ネックレス *Peggy's Necklace* をペギーグッゲンハイムミュージアム (イタリア・ヴェニス) の入り口正面に展示。
- 2008 年 ケルン (ドイツ) のカーステン・グレーヴギャラリーでアーティストとしての転機を迎える。これ以後、抽象表現的な作品を制作するようになる。
- 2009 年 ハラミュージアムアーク(群馬県) の創立 20 周年を記念して *Kokoro* を制作。
- 2011 年 ポンピドゥセンターにて初の回顧展を開催。続いて「My way」と題して世界巡回をおこなう。
(Leeum Samsung Museum/ソウル、原美術館/東京、マカオミュージアム)
- 2012 年 ニューヨークブルックリンミュージアムにて回顧展の最終章を迎える。
ウジェーヌ・ドラクロワ美術館 (パリ) にて植物の挿絵と彫刻を対話形式に展示。
- 2013 年 森アートミュージアム 10 周年記念に依頼され、毛利庭園内にハート型の巨大オブジェ *Kin no Kokoro* を設置。
- 2014 年 ヴェルサイユ宮殿庭園内の *Le bosquet du théâtre d'eau* (水の劇場の木立) の修復のため、現代創作プロジェクトのアーティストとして JM オトニエルと造園設計家ルイ・ベネックが選ばれる。2015 年春、そのプロジェクトで生まれ変わった庭が一般公開予定。オトニエルの *Les Belles Dances* (美しい舞踊) がルイ 14 世以来初めて常設展示される。

パブリックアート

① *Le Kiosque des Noctambules*

(夢遊病者のキオスク)

2000 / 560 x 600 x 200cm

ムラーノガラス、スチール、アルミニウム、陶

メトロ生誕 100 周年を記念し、また新千年紀の幕開けとして、パリ市の中心に位置するパレ・ロワイヤル・ミュゼ・デュ・ルーヴル駅がムラーノガラスのエレメントとアルミニウムによって装飾され、新しく街を彩りました。

JM オトニエルはメトロの入り口を“通り道、交流の場、欲望のスペース”と捉え、現実的な建造物であると同時に、ユートピアを具現化した体験型アート作品として仕上げ、現実と理想の調和を図りました。



Le Kiosque des Noctambules, 2000. Copyright Jean-Michel Othoniel/ADAGP, Paris,

2014, Photo: Jean-François Mauboussin



Le Confident, 2007. Copyright Jean-Michel Othoniel/ADAGP, Paris, 2014

Photo: Othoniel Studio

② *Le Confident* (S 字型ベンチ)

2007 / 300 x 400 x 122cm

ムラーノガラス、スチール、アルミニウム

南フランスに位置するコートダジュールの都市、ニースの路面電車の停車場を、アルミニウムのリングの連なりとガラス玉で装飾された都会の中にある詩的なベンチとしてデザイン、制作が行われました。

多くの人が行き交う、交通の要所において、“会話”というテーマが与えられ、2人用の椅子に座る人たちが、その広場にいることを完全に忘れられるような、新たな空間として誕生しました。

過去の展覧会



View of the exhibition "My Way", Centre Pompidou, Paris, 2011.

Copyright Jean-Michel Othoniel/ADAGP, Paris, 2014, Photo: Guillaume Zicarelli

- ③ 「マイウェイ」展示風景
ポンピドゥセンター（パリ）
2011

サムスンミュージアム（ソウル）
原美術館（東京）
マカオミュージアム
ブルックリンミュージアム（アメリカ）
巡回

ポンピドゥセンターで「マイウェイ」と題された初の回顧展が開催され、作家として歩んできた 20 数年の道のりの中で生まれた 80 以上もの作品が展示されました。80 年代に制作された硫黄や蠟を用いた初期の作品から、今日の代表的なガラスの作品へと移り変わる様子が順を追って公開されました。

展示作品



④ こころの門, simulation image

2014 / 365 x 355 x 320 cm

こころの門 は2連の紅白のオブジェです。正面から見るとハート型ですが、見る角度によって形が変化します。

左は CG 画像ですが、夏には高さ 3.65 mの立体作品が美術館の野外スペースに登場します。ハート型の作品はハラミュージアムアークの入り口と六本木の毛利庭園内に設置されていますが、この作品はオトニエルにとって初めての2連のハート型作品となっています。

こころの門, 2014.

Copyright Jean-Michel Othoniel/ADAGP, Paris, 2014. Courtesy Galerie Perrotin

⑤ *Untitled*

青いグラデーションのあるネックレスのドローイング

2014 / 36.0 x 26.0cm

水彩、紙、額

右は、館内1階通路スペースに設置される予定の2連ネックレスのドローイングです。一粒一粒のガラス玉が、青いグラデーション状に配色されています。また、長い1つの輪がひねられて2重になっています。この巨大ネックレスシリーズは2004年のルーヴル美術館での展示以降、イタリアのペギーグッゲンハイムコレクションの門前に設置されるなど、オトニエルの代表的なシリーズとなりました。



Untitled, 2014. Copyright Jean-Michel Othoniel/ADAGP, Paris, 2014



The Knot of The Imaginary, 2012.

Copyright Jean-Michel Othoniel/ADAGP, Paris, 2014. Courtesy Galerie Perrotin. Photo: Guillaume Ziccarelli

⑥ *The Knot of The Imaginary*

(想像の結び目)

2012 / 180 x 165 x 135 cm

ガラス（鏡張り）、ステンレススチール

The Knot of The Imaginary（想像の結び目）は、フランスの精神分析家ジャック・ラカンの理論を可視化した幾何学的形態をしています。知恵の輪のように、うねり連なるガラス玉がオレンジ、黄緑、シルバーの3色をベースにグラデーションで変化する様子をご覧ください。

⑦ *Noeud alessandrita miroir*

(青紫色の結び目 [鏡張り])

2014 / 70 x 65 x 35cm

ガラス（鏡張り）、スチール

宙吊りにされたこのオブジェは、2009年から制作されている結び目シリーズです。この形態は位相幾何学の理論、ボロメオの結び目に基づくもので、作家の好むモチーフです。現実とは現実界、象徴界そして想像界の3つの絶妙なバランスでできており、人間には決して言葉では言い表すことのできない空虚があるということを、内部の空間で表現しています。



Noeud alessandrita miroir, 2014. Copyright Jean-Michel Othoniel/ADAGP, Paris, 2014.

Courtesy Galerie Perrotin. Photo: Claire Dorn

開催情報

- ◇展覧会名 軽井沢ニューアートミュージアム開館 3 周年記念
ジャン＝ミシェル オトニエル「愛の遺伝子展 “DNA of Love”」
- ◇会 期 2014 年 7 月 11 日（金）～2015 年 6 月 29 日（月）
ジャン＝ミシェル オトニエル展は特別招待作家として単独開催。
同時期に「六つの個展—2 人は、ニュー・アート—」展も開催中。
- ◇会 場 Karuizawa New Art Museum 第 4 展示室（2 階）、1 階通路スペース、屋外
〒389-0102 長野県北佐久郡軽井沢町軽井沢 1151-5
- ◇開館時間 7 月～9 月：午前 10 時～午後 6 時
10 月～3 月：午前 11 時～午後 5 時
4 月～6 月：午前 10 時～午後 5 時
※入館は閉館 30 分前まで
- ◇休 館 日 毎週火曜日 ※火曜日が祝日の場合、翌日休館・8 月無休
- ◇観 覧 料 一般：1500 円、65 歳以上・高大生：1200 円、中小生：700 円
※20 名以上の団体で来館の場合、上記各観覧料の 200 円引き
※未就学児無料、障害者割引あり（上記各観覧料の半額）
- ◇監 修 伊東順二
- ◇企画・主催 一般財団法人 Karuizawa New Art Museum
- ◇後 援 在日フランス大使館、長野県、長野県教育委員会、軽井沢町、信濃毎日新聞社、上毛新聞社、SBC 信越放送、NBS 長野放送、TSB テレビ信州、abn 長野朝日放送、軽井沢新聞社、軽井沢ニュース舎、KIAC(軽井沢国際芸術文化都市推進協議会)



関連情報

【関連イベント・プログラム】

◇ワークショップ

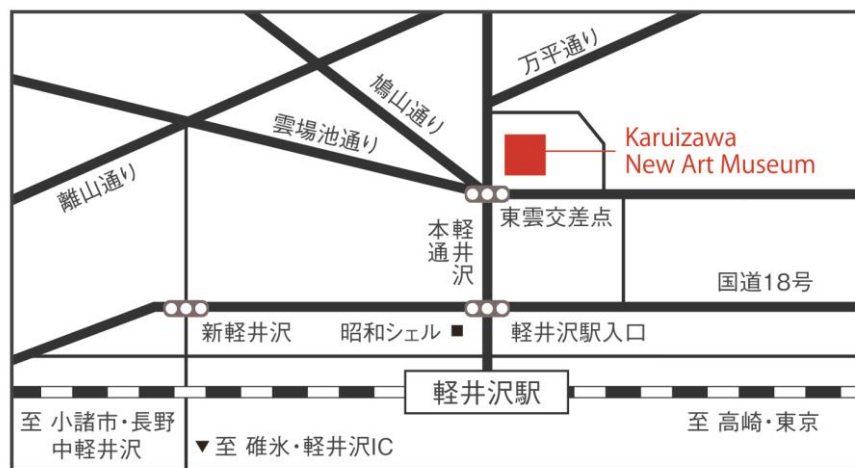
◇学芸員によるギャラリートーク

※上記以外にも様々なイベント・プログラムを開催予定です。

詳細は、後日当館 HP にて告知いたします。

【交通案内】

JR 東日本・しなの鉄道「軽井沢駅」から徒歩 8 分



※駐車場完備（乗用車 25 台・大型バス 4 台駐車可）

【プレス画像】

本展広報用として、番号記載のある画像 9 点の作品画像がございます。

掲載ご希望の方は別紙 FAX シートにて、ご希望の作品番号をお知らせください。

【お問い合わせ先】

Karuizawa New Art Museum（軽井沢ニューアートミュージアム）

TEL: 0267-46-8691 / FAX: 0267-46-8692

〒389-0102 長野県北佐久郡軽井沢町軽井沢 1151-5

pr@knam.jp

軽井沢ニューアートミュージアム開館 3 周年記念

ジャン＝ミシェル オトニエル 「愛の遺伝子展 “DNA of Love”」

財団法人 Karuizawa New Art Museum 広報課宛

FAX: 0267-46-8692 / E-mail: pr@knam.jp

本展覧会広報用素材として、作品画像 9 点をご用意しております。

ご希望の際は下記申込用紙に必要事項を全てご記入の上、ファックス又は E メールにてお申込みください。なお、写真の使用に際し、以下の点をご注意ください。

① キャプションは、作家名、作品名、制作年、クレジットを必ず表記ください。

② 作品のトリミング、文字載せは禁止とさせていただきます。

※本展記事を紹介頂く場合には、恐れ入りますが情報確認の為の校正、掲載誌（紙）、DVD、CD 等をお送りください。

媒体名：	種別： ☐ テレビ ☐ ラジオ ☐ 新聞 ☐ 雑誌 ☐ フリーペーパー ☐ ネット媒体 ☐ 携帯媒体 ☐ その他（ ）	発売・放送予定日： 年 月 日
御社名：	ご担当者名：	電話番号：
FAX 番号：	ご住所：	メールアドレス： @

画像番号：⑧と⑨は⑥と⑦の一部拡大画像です。

- ☐ ① 夢遊病者のキオスク
- ☐ ② S 字型ベンチ
- ☐ ③ マイウェイ展展示風景
- ☐ ④ こころの門
- ☐ ⑤ 青いグラデーションのあるネックレスのドローイング
- ☐ ⑥ 想像の結び目
- ☐ ⑦ 青紫色の結び目〔鏡張り〕
- ☐ ⑧ 想像の結び目（一部拡大）



- ☐ ⑨ 青紫色の結び目〔鏡張り〕（一部拡大）

※必要な画像のチェックボックスに印をしてください。